

令和4年度（2022年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科（修士課程）入学試験問題
音楽学専攻 語学（英語）

I. 以下の文章を読み，下記の設問に答えよ。

この問題は著作権法上の関係により，出典のみを記載しています。

1. 下線部1)について著者がここで逆接のneverthelessで繋いでいる意図を説明せよ。
2. 下線部2)と対比的に著者が持ち出している概念を本文中から選んで答えよ。
3. 設問2)で答えた概念とRomantic person-centric approachとのそれぞれの内容を日本語でわかりやすく説明せよ。
4. 本文中，著者が”Big-C”，”Little-C”と呼んでいる内容について，設問2)で対峙した2つの概念との関連性に触れながら日本語で説明せよ。

出典：Bruford, B. (2018), “Uncharted: Creativity and the Expert Drummer”, Univ. Michigan Pr.

II. 以下の文章を読み、下記の設問に答えよ。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

**注：この文章は、entropy, evolution, informationの3つの概念を今後とも理解を深めるべき対象としてを挙げた後に続いているものです。

1. この文章で著者が伝えようとしていることを要約しなさい。（文章の和訳をするのではなく、著者が読者に伝えたいと思っている内容の要点を記述すること。要点記述の要領は別紙を参考にせよ。）
2. この文章を読んで感化されたある人物が「だから学校の授業は退屈なんだ！」と言っているとします。その人物は学校の授業の特徴をどのように捉え、またこの著者の解説のどの点を根拠として、その主張をしているかを答えなさい。

出典：Pinker, S. (2018), "Enlightenment Now ", Viking.

【元の文章】

われわれが物を見る場合、視覚神経系は外界のイメージを単に受動的に受け入れて処理しているのではない。関心のある箇所に眼球を動かしたり注意を集中したりして、自分が必要とする情報を能動的に取り入れている。視覚や聴覚などの感覚情報処理は、 unnecessaryな情報を切り捨てることであるといっても過言ではない。

【要約の例】

著者は感覚を受動的なものとする捉え方は間違っていると解説している。具体的には、感覚情報処理には、注意するものに目を向けたりすることに端的に表れるように、 unnecessaryな情報を捨て必要な情報のみを取得するという能動的な側面があることを指摘している。

出典：福嶋，大串，齋藤 (2001), “視聴覚情報処理”，森北出版.

令和4年度(2022年度)
京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験
音楽学専攻 語学(ドイツ語)

以下のドイツ語を全て日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

出典：Constantin Floros, *Anton Bruckner: Persönlichkeit und Werk*, 2. durchgesehene Auflage
(Hamburg: Europäische Verlaganstalt, 2012), S. 222–223.

令和4年度（2022年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科（修士課程）入学試験問題

音楽学 小論文

下記のⅠ，Ⅱの設問に答えなさい。

- Ⅰ これまであなたは，どのような研究分野に関心を持ってきましたか？
あなたが勉強あるいは研究してきた内容について，詳しく説明しなさい。
- Ⅱ あなたが大学院で研究したいと考えているテーマについて，関心をもった
動機，先行研究との関係，研究の手法と手順，期待できる研究成果等につ
いて，詳しく説明しなさい。